

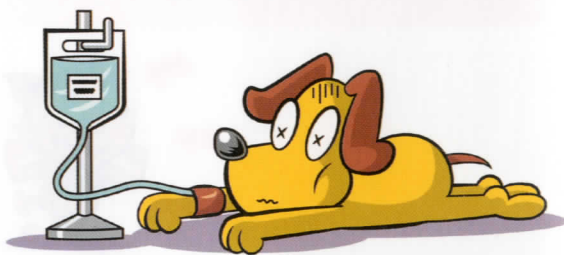
肝臓は「沈黙の臓器」

肝臓は体内で一番大きい臓器で、高い再生能力があります。肝臓の一部が悪くても、他の部分が働きを補うために異常が見つかりにくくなります。また、痛みも出にくいいため「沈黙の臓器」とも言われます。

そのため、症状が出た時には、病気がかなり進行している可能性があります。病気の発見を遅らせないためにも、定期的な健康診断を受けましょう。

肝臓が疲れているときは...

1. 安静にしましょう。
2. 適切な栄養を与えましょう。(低脂肪・良質なたんぱく質などをバランスよく。)
3. 肝臓の健康維持に必要な成分(亜鉛、食物繊維、ビタミン類など)を積極的に取り入れましょう。
4. 肝臓の負担になる銅やナトリウムは控えましょう。
5. 点滴や内服薬など、適切な治療を受けましょう。



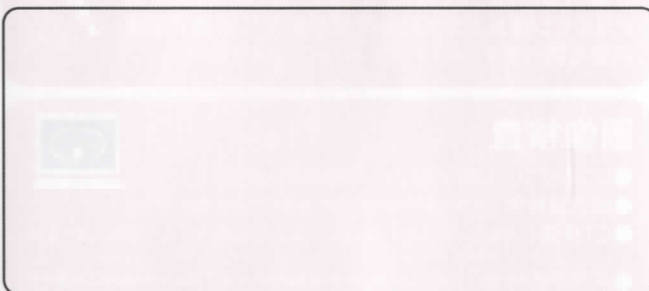
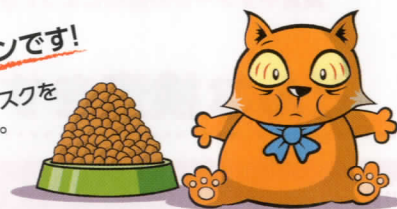
肝臓が悪いとこんな症状が...!?

☑ チェックしてみましょう。

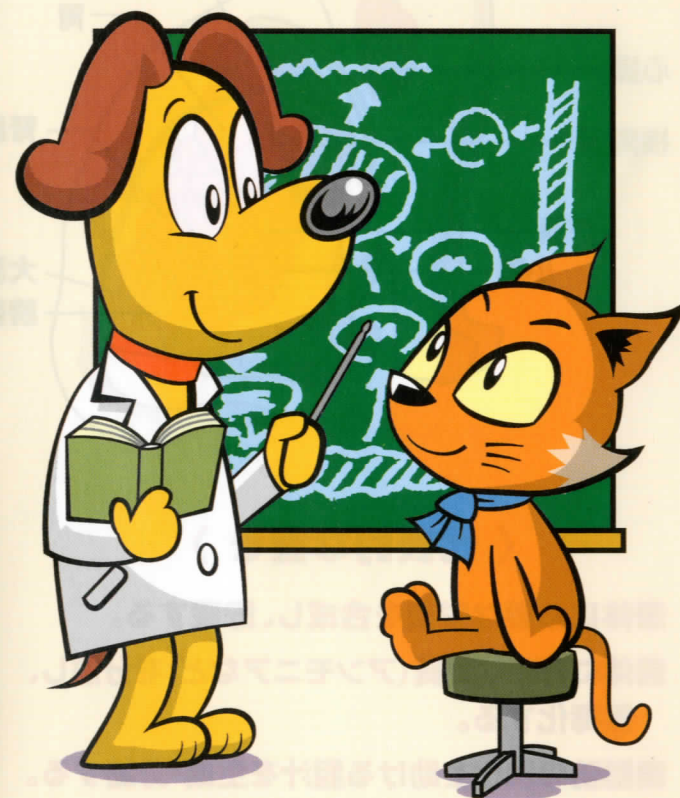
下記の項目が1つでも当てはまるものがあれば、かかりつけの動物病院に相談しましょう。

- 何となく元気がない
- 食欲低下
- 嘔吐や下痢
- 飲水量と尿量が増える
- 黄疸(粘膜や皮膚が黄色くなる)
- お腹まわりが大きくなる(肝腫大・腹水貯留)
- 便の色がいつもと違う
- よだれが出たり、異常行動が出る(肝性脳症)

猫の肥満はキケンです!
脂肪肝になるリスクを
高めます。

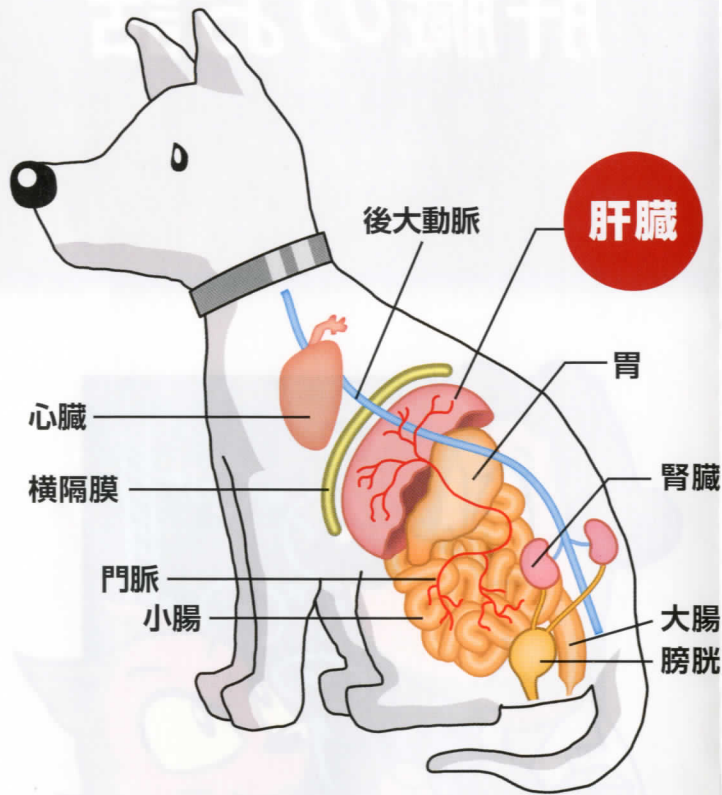


犬と猫の 肝臓のお話



肝臓の働き

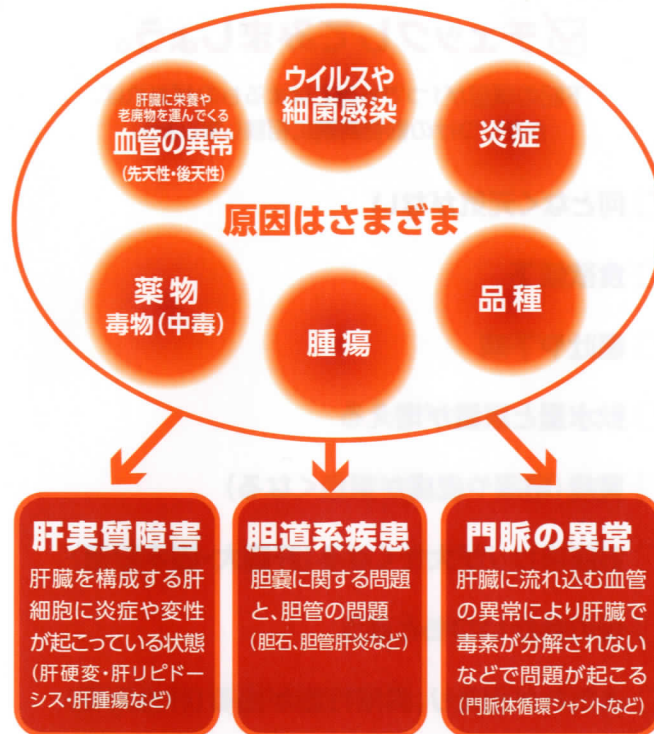
肝臓は上腹部(胸とお腹を隔てる横隔膜のすぐ下)にあり、広げた傘のような形をしています。通常は肋骨に囲まれているので、体の表面からは触れません。肝臓に運ばれてくるさまざまな物質を、別の物質に作り変える大切な仕事をしています。



〈 代表的な働き 〉

- 体に必要な栄養を合成し、貯蔵する。
- 体に有害な物質(アンモニアなど)を分解し、無毒化する。
- 脂肪の消化を助ける胆汁を生成・分泌する。

肝臓疾患の原因と分類



異常やダメージの部位によって分類されます

どんな検査をするの?

血液検査

肝臓の酵素 (ASTやALT) の値やコレステロール値、ビリルビン値などの上昇の有無を調べて、肝臓の健康状態を調べます。(ASTはGOT、ALTはGPTとも呼ばれます。)



画像検査

- レントゲン…肝臓の大きさや胆石の有無が分かります。
- 超音波検査…肝臓の腫れや腫瘍の有無、胆嚢の状態などを調べます。
- CT検査…腫瘍の位置や大きさ、数などについて、血管の走行についても詳しく調べることができます。
- 病理学的検査…肝臓に針を刺して、少量の細胞を採取し、顕微鏡で観察する検査です。



■肝臓はさまざまな機能を有しているため、どの部分にどれくらいの問題があるかは、複数の検査を組み合わせる総合的に判断します。

肝臓に良いとされているもの

マリアアザミエキス(シリマリン)

2000年以上も前からヨーロッパで民間療法として親しまれている西洋ハーブです。種子にシリマリンというフラボノイド混合物が含まれています。



クルクミン

ウコン(ターメリック)に含まれる抗酸化成分を有するポリフェノールの一種です。一般的には吸収されにくいのですが、水溶性クルクミンは吸収性が高められています。

酵母

アミノ酸やビタミン、ミネラルを豊富に含み、肝臓に必要な栄養分を供給します。

肝臓加水分解物

動物の肝臓を加水分解したもので、肝臓の良質な栄養分(たんぱく質・アミノ酸など)を供給します。

亜鉛

亜鉛は肝臓がアンモニアを分解する際に必要な成分です。また活性酸素を除外する酵素の材料になるなど、様々な生体機能に関わっています。

